

国道20号皇居周辺(内堀通り)の腐朽木ユリノキの健全度診断の検証結果(概要)

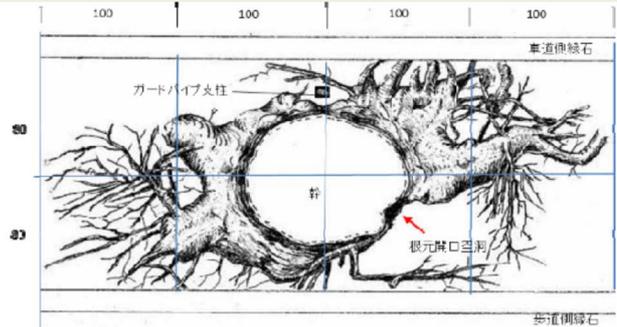
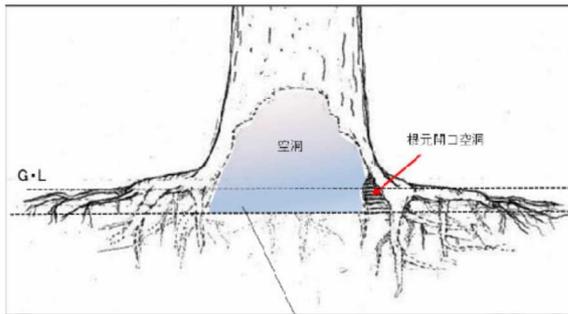
【NO.1】ユリノキの健全度診断と検証結果

<診断結果>令和3年2月 再診断報告書抜粋

【総合判断】

国土技術政策総合研究所のγ線による腐朽率計測によると、**地上高約15cm位置の腐朽率は60%**であった。幹内側腐朽部の防御帯については、過年度に実施したレジストグラフ診断では硬い防御帯の存在は確認できず、本年度に内部を直接触診したところ、空洞周囲の一部に腐朽の存在が確認された。

総合的に、倒伏に対する抵抗力が低く、今後の生長による回復が期待できない。早期の撤去が必要と考えられる。



地表部付近の細根は枯損



支持根付近の腐朽



腐朽による空洞部



空洞部内側の腐朽

<検証結果>



※材の容積密度 容積密度=全乾重量/生材体積



健全材 0.58 腐朽材: 黒色 0.51 腐朽材: 褐色 0.52 腐朽材: スポンジ状 0.30

地上高15cmの実腐朽割合
初期腐朽での変色(黄線): 62%

○地上高15cmの腐朽診断結果60%に対して、実腐朽割合は62%であり、誤差は小さく診断精度は高いといえる。

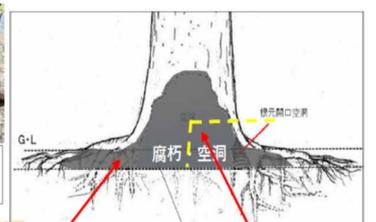


○No.2: 下部20cmまでは健全材、20cm以深は土壌(ドリル切削による調査)



○根株の下の土壌には根系はない

○車道側まで腐朽・空洞を確認



○開口空洞部の奥に空洞が広がっていることを確認



○No.1: 下部11cmまでは健全材、11cm~20cmまでは変色材、20cm以深で腐朽材、23cm以深は空洞(ドリル切削による調査)



※ドリル切削孔内の写真

○No.3: 下部に空洞を確認



腐朽割合: 62%

伐採により確認した地上高15cmの幹の実腐朽割合は62%。根株の腐朽は大きく広がっており、新たな垂下根は確認されなかった。

※検証結果は、国総研診断マニュアルでは危険度判定E、東京都診断マニュアルではC判定となり、どちらにおいても伐採(更新)が必要としている。

検証まとめ 伐採した樹体の状態から判断すると、診断結果は正当な評価であったと考えられる。

国道20号皇居周辺(内堀通り)の腐朽木ユリノキの健全度診断の検証結果(概要)

【NO.2】ユリノキの健全度診断と検証結果

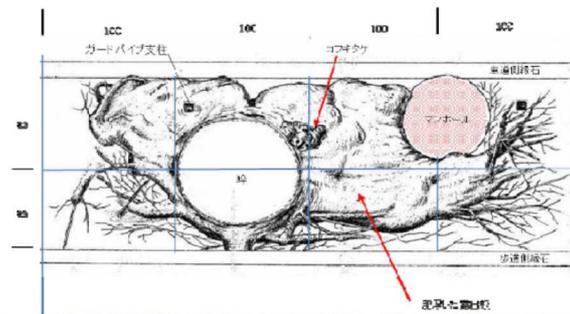
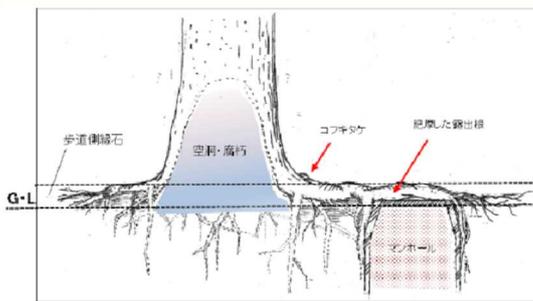
<診断結果>令和3年2月 再診断報告書抜粋

【総合判断】

国土技術政策総合研究所のγ線による腐朽率計測によると、地上高 50 cm (子実体発生位置から 10 cm 上部) で明確に材の密度低下が見られた比率は 43%であったが、子実体周辺の腐朽を考慮し、やや密度低下が見られる初期腐朽を含めると 60%以上になる可能性がある。

幹内側腐朽部の防御帯については、過年度に実施したレジストグラフ診断では硬い防御帯の存在は確認できず、No1 の状況を勘案すると同様に内側に腐朽が存在する恐れがある。

根元のコブキタケは拡大しており、今後腐朽の進行が考えられることを考えると、同区間の他の樹木と比較して倒伏の危険がきわめて大きく、撤去が妥当と考えられる。



<検証結果>

<p>地上高50cmの実腐朽割合 初期腐朽での変色(黄線)：46%</p>	<p>地上高30cmの実腐朽割合 初期腐朽での変色(黄線)：58%</p>
<p>○地上高50cmの腐朽診断結果43%に対して、実腐朽割合は46%であり、誤差は小さく診断精度は高いといえる。</p>	<p>○地上高30cmの腐朽診断結果63%に対して、実腐朽割合は58%であり、誤差は小さく診断の精度は高いといえる。</p>
<p>参考：主幹の上部における腐朽状態</p> <p>地上高110cmの実腐朽割合 初期腐朽での変色(黄線)：42%</p>	<p>地上高350cmの実腐朽割合 芯の変色は健全材：0%</p>

○樹体の腐朽は、根株が最も大きく、上部方向に向かって小さくなっている。p.4

伐採により確認した地上高 30cm の幹の実腐朽割合は 58%。根株の腐朽は大きく広がっており、新たな垂下根は確認されなかった。

※検証結果は、国総研診断マニュアルでは危険度判定E、東京都診断マニュアルではC判定となり、どちらにおいても伐採(更新)が必要としている。

検証まとめ 伐採した樹体の状態から判断すると、診断結果は正当な評価であったと考えられる。